

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191500012		
法人名	三菱電機ライフサービス株式会社		
事業所名	中津川ケアハートガーデン グループホームなかむらの郷 (つくし)		
所在地	岐阜県中津川市中津川3042-39		
自己評価作成日	平成26年11月17日	評価結果市町村受理日	平成27年1月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2191500012-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成26年12月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体法人の組織的な研修体系があり スタッフの資質向上を目指し、全員参加型の研修や力量に合わせた研修を行い、常にケアの向上を目指している。ケアマネジメント「センター方式」を活用する為に、母体法人からの講師と認知症介護研究・研修センターからの講師による認知所の基本と活用方法を学び、利用者本位のケアと個別性を重視したケアに取り組んでいる。地域の方々の訪問も多く、交流や地域貢献も行うなど関わりを大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地元の敬老会、自治会員が、掃除、包丁研ぎ、おやつ作りや畑作業などの、ボランティアで訪れている。母体法人は、組織的な職員研修制度を設け、専門知識の習得や資格取得の機会を提供している。職員の知識やケア技術が高まり、サービスの質の向上につながっている。さらに、センター方式で得た、本人情報を、家族と共有し、その人の生きる力を引き出し、その人らしい生活ができるように支援をしている。職員間では「お互い様」の気持ちを持って勤務し、定着率も良い。常に、利用者の安全、安心と、個別性を重視した取り組みを実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(つくし)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	①「喜びや不安を分かち合う為に共に過ごすことを大切にします」 ②「チーム(利用者・家族・地域の方々・医師・スタッフ)で支援します」を理念とし、スタッフ全員が理念に添ったケアに取り組んでいる。	理念は「喜びや不安を分かち合い共に過ごす」とし、玄関や会議室など、見やすい所に掲げている。理念の意義を、職員間で周知し、チームで連携しながら共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所から季節の野菜をいただいたり、施設で作ったお菓子などご近所に届けたり、地域の「いきいきサロン(介護予防サロン)」に参加させていただき交流している。	自治会に加入している。回覧板で行事案内が回り、地域のいきいきサロンや行事に参加している。高校生の体験学習を受け入れたり、老人クラブより、包丁研ぎ、庭の草取りなどの奉仕を受けるなど、地域とのつながりがある。	地域密着型サービスが定着した事業所である。今後は、近隣の幼稚園、小学生との交流を計画している。その進展に期待をしたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティア受け入れ時などに、GHとは・認知症の理解・予防について話が弾むこともあり、今後は介護相談なども受けられるようにしたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的に開催し、現状報告・地域内の情報収集・市職員との情報交換や意見交換を積極的に行い、サービスの向上に努めている。	運営推進会議は、隔月に開催している。運営の現状を報告し、意見を交換している。今回の会議に合わせ、火災訓練を実施し、専門的な対応を、消防署員から学び、そこでの体験を、今後に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	成年後見制度の利用についての相談や介護相談員受け入れ・中津川市GH部会会議時の情報交換など定期的に行ったり、市主催による会議、講演会などに積極的に参加し情報交換を行っている。	市の担当者とは、介護保険の動向、成年後見制度等で意見交換をしている。定期的に運営の現状や課題を伝え、助言を得ている。行政主催の研修会や連絡会議へ参加し、サービスに活かしながら協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ全員が身体拘束ゼロの取り組みを理解し施錠や言葉による制止もしないケアに取り組んでいる。	身体拘束ゼロについて、マニュアルを整え、学習を行っている。また、止むを得ない事態があれば、家族と話し合っている。言葉の拘束、心理的な抑制がないように、職員間で話し合い、声かけに配慮し、拘束ゼロに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ全員が研修を受け、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	制度について情報を入手し、利用している方もあり、今後も常に必要性の見極めを行い活用できるように努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居希望者には事前説明や意見交換を十分に行い、納得された上で契約を行っている。又改定時にも、その都度説明を行い理解していただくように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時や面会時など要望を聞いたり、家族アンケートも実施し、家族の意見や要望をスタッフ会議で話し合い、その結果を家族や運営推進会議で報告している。	家族へは、利用者の様子や気づきなどを記載したホーム便りを送付し、家族が意見を出しやすい工夫をしている。また、家族の訪問時にも、意見や要望を聞いている。それらを検討し、サービスの向上に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者はスタッフ会議に参加し、スタッフとの意見交換に努めたり、スタッフからの意見・要望は月1回のシニア会議の場などで検討し、改善策を講じるように努めている。	代表者や管理者は、会議で、職員の意見や提案を聴いている。ケアの気づきやアイデア、体験事例を活かし、運営に反映させている。また、職場環境を整え、互いに認め合う関係を築き、職員の定着率を高めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの日々の取り組みや実績、自己研鑽などにより夫々に応じたベースアップや賞与を支給している。様々な資格取得に対しての奨励金制度やレク補助制度を設け、働きやすい職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の講師による研修(拠点研修・本社での集合研修)があり、学ぶ機会が多い。スタッフの実績や力量については、スキルマップを用いて、力量に応じた研修を行い、学ぶ機会を設けスキルアップを目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の全GHで部会を作り、情報交換やスタッフの合同研修を定期的に行い、ケア向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談の段階から本人の意向や要望などを把握したり、入居後はスタッフ全員でアセスメントシートの24時間パターンシート・D-4シート等を記入して情報を共有し、安心して暮らして頂けるように信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望の家族とは事前面談時から相談しやすい雰囲気作りに努め、サービス利用についての説明も丁寧に行ったり、家族との信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望された時から事前面談を通して状況把握やサービスの必要性を見極め、他のサービス機関への情報提供を行うように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホーム内での家事をスタッフだけで行うのではなく、一緒に行くことを心掛けている。料理の味見をお願いし教えていただくこともある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に見えた時、家での暮らしを尋ねながら、昔の職業、趣味、なじみの物など何だったのか聞き、ホームでの様子伝え生活のヒントを得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブに出た時、住んでいらした地域や働いていた会社などを巡りながら、会話をはずませている。また、以前より利用されているヘアサロンに職員同行にて行くこともしている。	家族、親戚、同僚や近隣住民の訪問が多くある。老人クラブや地元のボランティアとも、馴染みの関係を継続している。喫茶店、美容院や買い物なども、家族の協力を得ながら出かけ、関係が途切れないよう支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	様子を見ながらスタッフが間に入り、声をかけて話題づくりをしたりして雰囲気づくりに努めている。また、入居者様同士の相性も考え、食堂の席の配置を考慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も家族様が當んでいらっしゃるお店を利用させていただくなど交流を行なっているが、全員の方にはできていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりと、会話、表情などからその人の気持ちを探ったり、センター方式の基礎情報を共有しスタッフで本人本位のケアを目指し取り組んでいる。	日々の暮らしの中で、思いや意向を把握している。困難な人は、表情から汲み取っている。センター方式の情報で、生活歴や人格を把握し、その人らしい暮らし方に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族に記入していただいた暮らしの情報シートを見たり、本人との会話で聞き出すようにしている。不足している情報は、面会時に家族様に確認したり、本人様との会話の中から把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録を活用し、毎日の入居者の状態の変化を見逃すことのないよう、スタッフ同士で情報を共有し申し送りをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の要望や、本人の希望などを聞いてプランに反映している。 また、日々スタッフ同士アイデアを出し合い、センター方式を活用しながらプランを作成している。	介護計画は、本人・家族の要望を取り入れて作成している。さらに、介護記録を基に、医師、看護師や専門職の意見を組み込み、健康で安心して暮らせるよう、計画に反映させている。	介護計画の作成では、できる限り、家族の要望、利用者の希望を聴くための時間設定に期待をしたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	統一したケアをするため、様子やうまくいったケアなどを共有し、その人に合ったケアを見つけ出している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出のニーズに対しては、ドライブを行うなどしている。車イス使用の方でも外出できるように車イス車に変更した。 同法人の施設行事にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月行われている地域主催の高齢者の寄り合い(いきいきサロン)へ参加している。年一回の民生委員の訪問受入れや、隔月の介護相談員の受入れも行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人の希望により、かかりつけ医を継続する方と、GHの協力医に変更される方がある。協力医は2週間ごとに往診があり、全員の方を診られ、24時間体制で相談や緊急対応を受けられるようになっている。	利用者、家族が希望する、かかりつけ医を継続している。受診は原則家族が対応だが、緊急時や都合によっては事業所が同行している。協力医は、2週間ごとの往診があり、24時間の連絡体制を取っている。職員の看護師が健康管理を行い、適切な医療を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師配置となっており、入居者の情報共有を行い、健康管理やスタッフへのアドバイス・スタッフからの相談・対応などの支援を行っている。時には家族への説明、医師との連絡もとってもらい24時間体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、主治医からの依頼と情報提供がされており、GHからも情報を提供し、常に病院関係者との信頼関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けた家族の話し合いを持つ時期だと判断した時、家族、医師の意見を聞きながら、意向確認を行っている。面会時、月次報告書等で日頃の状況を伝え、おとずれる終末期前からの経過を伝えている。	契約時に、重度化や終末期の方針を説明し、同意を得ている。早い段階から、医師と家族、関係者が話し合い、最良の方法を選択している。終末期の支援は、家族の協力のもとで、取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフ全員が年1回救急救命講習を受け、緊急時に対応できるように訓練を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害を想定した訓練を全スタッフがを行い、年1回は消防署の職員の立会いで総合防災訓練を行って助言や指導を受けている。現在は夜間想定での訓練を行っている。	消防署協力の下、夜間想定を含め、災害訓練を実施している。訓練を経て、地域と協力のあり方、職員配置や不備な点などを検証している。地元の防災訓練では、事業所の役割を提示し、協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重することを大切し、常にスタッフ間で話し合い、自分に置き換えて考え、誇りやプライバシーを損ねない対応を行っている。引継ぎ時の声や、排泄の声かけなどは他者に聞こえないよう常に配慮している。	高齢者を敬う気持ちと、人権尊重を大切にしている。特に、自尊心やプライバシーを損なわない、言葉かけに配慮をしている。また、自己決定に働きかけ、本人の気持ちを受け入れるように対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こちらから「～しましょうか？」と誘うのではなく、入居者本人が、何をしたいのか？どうしたいのか？出来る限り本人の意志を引き出す声かけができるように〇〇さんどうしたい？どうしよう？に声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時、その時どうしたいのか、何がしたいのかを本人に確認しそれに応えられるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	明るい色が好みの方には、本人に確認しながら明るい色のものを選んだり、時にはスカーフで工夫したりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理と一緒にできることは行ない、味見、盛り付けなどを行うことで、食事を楽しみにしていただける工夫を行なっている。食後の下膳、テーブル拭きなどそれぞれの力に合わせてやっていただいている。	食事は、3食手作りである。できる人は、調理に加わり、準備や片付けも手伝っている。職員も一緒に同じ食事をし、味付け具合や郷土料理づくりの会話がはずみ、楽しい食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量に注意を払い、食事形態も個々に合わせて提供している。義歯の方にキザミ食にしたり、飲み込みの悪い人には、ムース食を提供している。また、水分を毎日チェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの支援を行っているが、自力で行われる方や歯磨きが理解できない方もあり、出来ない方には緑茶を飲んでいただくこともある。夕食後は注意しながら睡眠前までは、口腔ケアの声掛けを行っている。		

岐阜県 中津川ケアハートガーデン グループホームなかむらの郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人記録により排泄パターンをつかみ、トイレ誘導をしている。時には自分でパット交換を行っていたりチリ紙をはさんでおられたり、それぞれ工夫されている為さりげなく廃棄させてもらっている。	個々の排泄パターンを把握し、動きも観察し、さりげなくトイレへ誘導している。昼夜共、トイレでの排泄を目指し、その人に合った、パッドを選択している。重度者もトイレへ促し、現状維持できるように取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつの際に、便通に良い食べ物の提供や、腹部マッサージを行っている。排便コントロールでは、自力排便を促すためにナース、医師と相談しながら下剤を調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯はおおむね決まっているが、入浴時間内であれば、希望に添えるように支援している。夏場は、清拭を行い、入浴ができなかった方にも清潔に保っていただいている。	入浴は、週に3回を基本としているが、時間帯や回数は利用者の希望に応じている。浴槽は、個浴とリフト浴があり、リフト浴を好む人が多くなっている。介助者と気持ちを通わせ、ゆったりと入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休みたい時には、自由に居室で休んでいたくよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の記録に常に目を通し、症状の変化が見受けられるようであれば、スタッフ同士の話し合いを持ち、変化の確認をしている。医師、ナースとも連携を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分から決めて役割を持っていらっしゃる方もあり、尊重と感謝の気持ちを述べている。時には晩酌に誘い、楽しみのある時間を持っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	庭で散歩される方、畑の見回り、草取りなど日に何度も外に出られる方もおられる。買物に出かけたい希望の方にも声をかけ、外出の機会を作っている。家族様が週1回外出に同行して下さる方もおられる。	日常は、近隣を散歩したり、テラスで日光浴をしている。車椅子対応の福祉車両購入が実現し、喫茶店、買い物、外食やドライブなどに出かける機会が多くなった。年間行事では、季節の花見、紅葉狩りや祭りなど、家族の協力を得て、出かけている。	

岐阜県 中津川ケアハートガーデン グループホームなかむらの郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の承認のもと現金を持っている方もある。外出の際は現金を持っていかれ、支払い時に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	親類から定期的にハガキが届き、手渡している。本人は返信を望まれていないため返信はしていないが、いつでも電話でのやりとりできるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様がまぶしければカーテンを閉められるので、それに合わせスタッフは空調、照明などを調整する。温度、湿度計を設置して確認している。トイレも重なり合う時は衝突のないよう誘導を行っている。	共同の空間は、広く、空調設備が整っている。居間と対面式の台所であり、食事づくりの時間になると、皆が自然に集まってくる。生花や共同の手づくり作品を、随所に飾り、季節感を味わい、居心地よく寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	転倒など危険のない範囲で、自由にすごしていただき、どなたとも会話できる時間もあり、また一人で過ごしていただける時間など工夫している。庭のベンチ、廊下の隅、玄関の陽だまりなどにイスを配置し、思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた、なじみの物を持ち込んでいただいている。時にはGHでの生活の写真、作品などで居室を殺風景のないよう配慮している。	居室入り口には、好みの暖簾と、表札を掛けている。クローゼットがあり、空間が広く確保できている。使い慣れた整理ダンス、鏡や椅子を置き、記念の写真、手づくりの作品などを飾り、居心地のよい居室づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋やトイレは、解り易く表示したり、夜間はトイレ内の電気を点灯したままで混乱を招かないようにし、自立支援を心掛けている。又状況により離床センサーを使用し転倒などがないように見守りも行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191500012		
法人名	三菱電機ライフサービス株式会社		
事業所名	中津川ケアハートガーデン グループホームなかむらの郷 (れんげ)		
所在地	岐阜県中津川市中津川3042-39		
自己評価作成日	平成26年11月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成26年12月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	適いの場合やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(れんげ)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	①「喜びや不安を分かち合う為に共に過ごすことを大切にします」 ②「チーム(利用者・家族・地域の方々・医師・スタッフ)で支援します」を理念とし、スタッフ全員が理念に添ったケアに取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、自治会報や市便りなどの配布も受け、毎月、様々なボランティアの訪問もあり、地域の方々と日常的な交流がある。地域で開催されている健康サロンにも参加させていただいている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティア受け入れ時などに、GHとは・認知症の理解・予防について話が弾むこともあり、今後は介護相談なども受けられるようにしたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的に行われ、現状報告・地域内の情報収集・市職員との情報交換や意見交換を積極的に行い、サービスの向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	成年後見制度の利用についての相談や介護相談員受け入れ・中津川市GH部会会議時の情報交換など定期的に行ったり、市主催による会議、講演会などに積極的に参加し情報交換を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ全員が身体拘束ゼロの取り組みを理解し施錠や言葉による制止もしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ全員が研修を受け、虐待防止に努めている。		

岐阜県 中津川ケアハートガーデングループホームなかむらの郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	制度について情報を入手し、利用している方もあり、今後も常に必要性の見極めを行い活用できるように努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居希望者には事前説明や意見交換を十分に行い、納得された上で契約を行っている。又改定時にも、その都度説明を行い理解していただくように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時や面会時など要望を聞いたり、家族アンケートも実施し、家族の意見や要望をスタッフ会議で話し合い、その結果を家族や運営推進会議で報告している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者はスタッフ会議に参加し、スタッフとの意見交換に努めたり、スタッフからの意見・要望は月1回のシニア会議の場などで検討し、改善策を講じるように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの日々の取り組みや実績、自己研鑽などにより夫々に応じたベースアップや賞与を支給している。様々な資格取得に対しての奨励金制度やレク補助制度を設け、働きやすい職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の講師による研修(拠点研修・本社での集合研修)があり、学ぶ機会が多い。スタッフの実績や力量については、スキルマップを用いて、力量に応じた研修を行い、学ぶ機会を設けスキルアップを目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の全GHで部会を作り、情報交換やスタッフの合同研修を定期的に行い、ケア向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談の段階から本人の意向や要望などを把握したり、入居後はスタッフ全員でアセスメントシートの24時間パターンシート・D-4シート等を記入して情報を共有し、安心して暮らして頂けるように信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望の家族とは事前面談時から相談しやすい雰囲気作りに努め、サービス利用についての説明も丁寧に行ったり、家族との信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望された時から事前面談を通して状況把握やサービスの必要性を見極め、他のサービス機関への情報提供を行うように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	買物に行きたい方があれば一緒に行ったり、又不安になられた方には話をしっかり聞いたり寄り添うようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族もチームケアの一員として関わって頂ける様に常に働き掛けを行い、面会時には日々の生活の様子などを伝え、本人より電話したり、体調不良の際など連絡、相談、報告に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のお祭りに行ったり、馴染みのスーパーに行き知合いの方に合って話をされたり、帰宅される時もある。ご夫妻で入居の方はユニットが別であるが、毎日好きな時に行き来している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	10時と15時のおやつは一つのテーブルを囲み、みんなで話したり、笑ったり、歌ったり楽しく過ごすようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族様で営まれている喫茶店へ利用させていただいたりしているが、全員の方にはできていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	関わることで、一人ひとりの気持ちを汲み取り、その中で得た情報を記録に記入することで、スタッフ同士で共有し個々に適したケアをしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族にセンター方式の各シートに記入して頂き、また話を聞いたりして把握している。また、日常生活の中で、分かったことを随時記入し全員で共有し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルチェックをしながら、心身状態を観察し、本人の好きなことやできることを把握して、一日の過ごし方に取り入れている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを行い、より良い暮らしをして頂くための課題などを話し合い、意見、アイデアを出し作成し、その後のモニタリングを行うことで、本人様にとってどうかを見直ししている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、気分、気づき、ケアの実践状況、結果などを記録し、カンファレンスを行い、計画を見直し、実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や其の時の状況に応じて、通院介助・身の回り品の買物・特別な外出支援などを行っている。母体法人からも諸行事の応援や外出支援なども受けている。同法人の施設行事に参加している。		

岐阜県 中津川ケアハートガーデングループホームなかむらの郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2ヶ月に一度、介護相談員の方が来所され、悩み事を聞いていただいている。又、年一回地区民生委員の方が来所されている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人の希望により、かかりつけ医を継続する方と、GHの協力医に変更される方がある。協力医は2週間ごとに往診があり、全員の方を診られ、24時間体制で相談や緊急対応を受けられるようになっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職と看護師は日頃より連携をとり、報告、連絡、相談を行っている。 看護師は24時間電話対応できる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、主治医からの依頼と情報提供がされており、GHからも情報を提供し、常に病院関係者との信頼関係作りを努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調変化のあった時はすぐ家族に連絡し報告をし相談している。又月次報告等記録に残している。重症時その都度、主治医家族様と相談している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフ全員が年1回救急救命講習を受け、緊急時に対応できるように訓練を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害を想定した訓練を全スタッフがを行い、年1回は消防署の職員の立会いで総合防災訓練を行って助言や指導を受けている。地域の方々、家族様にも訓練を見て頂き助言をいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重することを大切し、常にスタッフ間で話し合い、自分に置き換えて考え、誇りやプライバシーを損ねない対応を行っている。引継ぎ時の声や、排泄の声かけなどは他者に聞こえないよう常に配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	押し付けた言い方ではなく、入居者様に決定していただけるような声かけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	やりたい事を聞きながら、一人一人のペースで進められるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の習慣を大切にしている。季節ごとに服の入れ替えをし、その時期に合った自分好みの服を選んでいただいている。介助の必要な方にも、起床時に洋服選びや整髪の支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節や行事等食べたい物を聞いたり、野菜切りの得意な方、茶碗洗いの好きな方など声掛けをし楽しい雰囲気をつくりながら、一緒にやれる時はやっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を常に記録して、一人ひとりの体の調子を見ながら、不足している方には、好みに応じ、食べて頂けるもの、飲んでいただけるもの、栄養補助食品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとり口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアを行うため、利用者様に付添って行ったり、声かけをして出来る動作を促している。義歯は入れ歯洗浄剤にて消毒している。		

岐阜県 中津川ケアハートガーデングループホームなかむらの郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを常にチェックし、行かれない時声をかけたり、出来ない部分の排泄支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日一人ひとりの最終便を記録し、個々に応じて対応したり、食物繊維の多い食品を食事やおやつに取り入れたりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	身体介護が必要な方には、移動時二人対応とし、リフトを使用して安全、安心な入浴を提供している。また、入浴好きな方にはゆっくり入浴していただいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの時間を大切にし、希望に沿った休息を心がけ、常に声をかけ安心して休息できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更時はしっかり発信している。スタッフ同士(ナースも含め)話し合いを持ち、変化の確認をしている。服薬時には常に見守っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日掃除機で清掃してくださる方に感謝の気持ちを伝え、生活の張合いになってもらえるよう支援している。コーヒー好きな方には、時々外出しコーヒーを飲みに行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出されたい方には買物等の時、声かけをしてお誘いしている。家族様にも発信しお願いしている。 今年は、映画鑑賞に家族の協力を得て行くことができた。		

岐阜県 中津川ケアハートガーデングループホームなかむらの郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金としては預からず立替払いを行っているが、外出時には必要に応じてお金を所持して頂き買い物ができるように支援している。食品納入業者訪問時にお菓子などの買物支援も行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様に電話をかけたい時は取り次いでいる。手紙も出される方がいてポストの投函はたのまれたスタッフが代行、文通ができていて本人の楽しみになっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、季節がわかる貼り絵をしたり、窓からは田んぼや柿の木があったり、季節がわかる環境ができています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お茶の時間にはみんなで自然に集まり楽しめるが、その後は話される方、居室に入られる方、新聞を読まれる方など、自由に過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様の写真をかざったり、お花を飾ったり、自由な居室になっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋やトイレは、解り易く表示したり、夜間はトイレ内の電気を点灯したままで混乱を招かないようにし、自立支援を心掛けています。又状況により離床センサーを使用し転倒などがないように見守りも行っている。		